

参加した コース	スポーツ・芸術探究コース		訪問国	アメリカ合衆国	
学校名	静岡県立駿河総合高等学校	氏名	繁延 亜周	学年	3

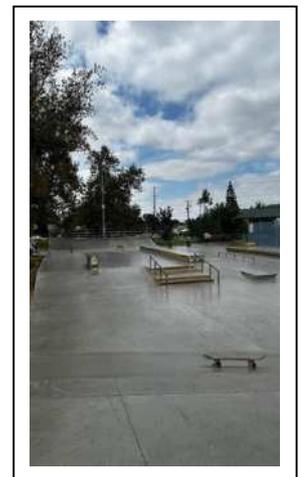
探究テーマ

＜スケートボード発祥の地アメリカの文化を探究し、静岡文化の発展と活性化に貢献する＞

私はスケートボードが大好きです。スケートボードをする中で、日本ではスケートボード競技者の数に対して、練習できる場所がとても少ないことに疑問を持っています。練習できる場所が無いと、公園や街中で練習する人が増え、騒音等の社会問題も起きています。スケートボードは限られた場所でしか練習ができません。私自身高校進学を考えた時には、高校から練習に通えるスケートパーク近くの学校を選びましたが、県内にも少ないため大変悩んだことがありました。今後日本でスケートボード文化が地域社会と共存し、地域活性化や青少年育成を推進するスポーツとして定着するためにはどのようなことを行っていく必要があるのか考えるために、スケートボード発祥の地アメリカの文化との違いを感じる必要があると考え、私は本場アメリカで探究したいと強く思い挑戦しました。

渡航前の準備と計画

渡航前には、訪問予定のスケートパークを事前にリスト化し、それぞれの位置関係を把握した上で、移動時間のロスが最小限になるルートを自分で考えました。その結果、現地での無駄な移動時間を減らし、スケートボードや交流の時間を多く確保することができました。また、現地のスケーターとの交流のきっかけを作るため、自分でオリジナルのステッカーをデザインし、制作しました。さらに、日本らしさを伝える方法として、Chabacco(チャバコ)を活用しました。Chabaccoは、タバコの箱のような見た目をしていますが、中身は粉末のお茶のスティックで、「タバコを吸う代わりにお茶を楽しむ」というコンセプトの商品です。この特徴的なデザインは海外の人の興味を引きやすく、スケーターとの会話のきっかけになると考えました。そこで、自らChabaccoの会社に連絡を取り、活動の目的を説明した上で協賛をしていただきました。高校生の立場で企業と直接やり取りを行った経験は、主体性や行動力の面で大きな学びとなりました。加えて、現地での気づきを感覚的な印象だけで終わらせないため、スケートパークの構造や路面の状態、利用者の人数や年齢層、雰囲気などを記録できる調査シートを作成しました。



現地でのスケートパーク調査

現地では、合計23か所のスケートパークを訪問し、写真撮影や観察、実際の滑走を行いました。特に印象的だったのは、どのスケートパークも路面が非常に綺麗だったことです。調査を

進める中で、アメリカの暖かく乾燥した気候が路面の質の高さに大きく影響していることが分かりました。細かいアスファルトを使用しても、時間をかけてゆっくりと乾燥させることができるため、滑らかで質の高い路面が維持されていると分かった。また、どのスケートパークでも常に10人以上の利用者が見られ、性別・人種・年齢を問わず、多くの人が集まっていました。それぞれのパークには特徴的なセクションがあり、初心者から上級者まで楽しめる構造になっていた点も印象的でした。

スケートボード大会への出場

今回の留学では、調査活動に加えて、競技者として現地のスケートボード大会にも出場しました。日本人は私一人で、他の出場者とは全員初対面でしたが、誰もがとても優しく、快く受け入れてくれました。技が成功すると、初対面にもかかわらず自然と歓声が上がり、会場全体が一体感に包まれていました。大会では決勝に進出し、最終的に8位という結果を残すことができました。日本の大会では真剣に取り組む雰囲気が高く、緊張感を感じる場面が多いですが、アメリカの大会では楽しむことを大切にしながら盛り上がる文化があると感じました。そのため、過度に緊張することなく、自分らしく滑ることができました。一方で、集中すべき場面では全員がしっかりと集中し、大会が終わるとすぐに切り替えて交流を楽しむなど、メリハリが非常にはっきりしている点も印象的でした。大会終了後には、現地のスケーターたちに誘ってもらい、12人で車に乗ってナイアガラの滝へ行きました。大会中は闘争心を持って真剣に滑っていた人たちも、終了後には同じ仲間として接してくれました。この経験を通して、スケートボードが勝ち負けだけの競技ではなく、人と人を深くつなぐ文化であることを改めて実感しました。言葉や国籍が違って、同じ場所で滑り、同じ時間を共有することで自然と信頼関係が生まれます。スケートボードの持つ力の大きさを、実体験として学ぶことができました。

今回のトビタテ留学を通して、私はスケートボードを競技としてだけでなく、文化として捉える視点を身につけることができました。路面環境やパークの設計、利用者の多様性、大会の雰囲気など、日本では気づきにくかった点を多く学ぶことができました。今後は、この経験で得た学びを日本や地元のスケートボード文化の発展に生かしていきたいと考えています。また、競技者としてもさらに成長し、海外の大会に積極的に挑戦し続けることを目標としています。今回の留学はゴールではなく、新たなスタートです。この貴重な経験を糧に、これからも挑戦を続けていきます。

